

<施設の概要>

名 称	グループホーム桜ヶ丘 A棟 B棟
土 地	1,266.06 m ² (借地、市有財産)
建物構造	木造アルミニウム板ぶき平屋建
建物面積	318.32 m ² (159.16 m ² ×2棟)
サービスの種類	共同生活援助事業
定 員	10名 (5名×2棟)

1. 入居者状況 (令和5年3月31日現在)

①年齢別数

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	2	0	4	0	2	8
女	0	0	0	1	0	1	2
計	0	2	0	5	0	3	10

※平均年齢 56.5 歳

令和3年度は定員10名のところ9名の状況がしばらく続いたが、令和4年度に入り1名の方が体験を通して入居し、定員10名となった。

②日中活動先 (内訳)

ワークサポート陽だまり (2)、ワークサポート陽だまり・やまびこ園・ぬくもりの里 (1)、野坂の郷 (1)、たんぼぼ・ぬくもりの里 (1)、ぬくもりの里・やまびこ園 (1)、はなえみ (1)、ひまわりの家 (1)、はこべの家 (1)、一般就労 (1)

2. 支援内容

① 重度・高齢化について

区分4の方が新しく入居された。家庭でも、洗濯などしたことがない方であったが、繰り返し体験することで湯船の張り方や洗濯機の使い方、洗濯物の干し方などが習得できつつある。集団の中でのルールについても少しずつではあるが、理解を深めているところである。

70代の方が3名入居されている。日中活動先もぬくもりの里を週に数回利用するようになり、入浴支援を受けたり、レッドコードを使った体操などをしたりして楽しく過ごしている。土日祝日に他の方は活動先に行き、高齢の方が一人で過ごす際には、支援者が不在の時には電話をかけるなどして様子を確認した。

引き続き、おむつなどの必要な日用品の購入、服薬管理(薬の一包化含む)、受診(不定期も含む)の送迎や付き添い、部屋の清潔保持などを行った。

② 家族との連携について

各家庭とは必要に応じて電話などで連絡を取り、本人の家庭での様子を聞いたり、ホームでの様子を伝えたりすることで、情報交換とさらなる信頼関係を築いていくよう心掛けた。

週末帰省などをされる方に関しては、簡単な表(カレンダー風)などを作成して帰省の有無が分かるようにした。

コロナの感染状況などに応じて、日中活動先で感染者が出た場合などは、家庭で過ごすかホームで過ごすか相談し、感染が広がらないよう協力を求めた。

③ 現金預かり管理サービスについて

嗜好品などの購入に関しては、今年度もコロナ禍で外出などが難しい状況だったため、お

やつや部屋に欲しいもの（掛け時計や花鉢など）などの希望を聞いて、購入することが多かった。年度終わりには、コロナの感染状況も少し収束し始めたので、月に1回程度の割合で利用者と一緒に量販店に出かけた。

④ 日中活動先との連携

昨年度に引き続き、体調不良の時やホームとして必要な休み(コロナワクチン接種など)の時など、必要に応じて連絡を取り、本人の状況を含め共有するよう心掛けた。日中活動先の様子を知ることで、ホームでの本人への対応方法を考えたり、参考にしたりした。

新型コロナウイルス感染の関係では、対応が必要と分かった時にはすぐに連絡を取るようになった。出勤についても相談し、双方で協力して対応するようになった。

⑤ 防災・防犯について

・10月20日(木) 10:30～

世話人の方々に、火災を想定し防火訓練を実施した(陽だまりと合同で)。煙体験や消火器の使用方法を再確認してもらい、災害への意識を高めてもらった。

・3月15日(水) 16:00～

自宅周辺で洪水が発生する可能性があるかと想定し、実施した。

また、高齢者等避難(レベル3)の発令も想定し、避難所としているワークサポート陽だまりまで、公用車を使用し移動する訓練を行った。

⑥ 職員間について

日頃から会話をするよう心掛け、ホームに対してや利用者に対して思っていることを伝えてもらい、改善点があるときには実施し、お互いが気持ちよく仕事ができる場になるよう心掛けた。

共通の時間の勤務ではなく、交互勤務になることも多い職場なので、自身の仕事内容を振り返り、次の人への配慮などについても話し合う時間を持った。

利用者の対応についても、それぞれの対応の仕方を聞き共有することで、新たな対応方法の発見であったり、自身の対応の振り返りをしたりすることができた。

⑦ 感染症対策について

引き続き、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、外出自粛の制限や手指消毒やマスク着用の徹底、休日昼食弁当対応など協力を求めた。状況に応じて、日中活動先への個別送迎、週末帰省の自粛なども行った。

発熱など気になる症状が出た際には、発熱外来を受診するよう対応した。

新型コロナウイルス感染の関係でホームとして自粛しないといけない時などには、日中活動先と連絡を取りあい、連携して対応した。必要に応じて、配付抗原検査を行い、利用者や家族の安心・安全につながるようにした。

2棟間で利用者の行き来が少なくなるよう、引き続き食事場所は別けて対応を続けた。

コロナワクチン接種の際は、集団接種を設定し、本人や家族、日中活動先と連携を取り、スムーズに接種できるようにした。

3. 苦情件数 0件

(2) グループホーム新和

<施設の概要>

名称	グループホーム新和
建物構造	鉄筋コンクリート造・4階建
建物面積	289.8㎡

居室間取り DK・洋室・シャワー室・トイレ・収納・バルコニー
 サービスの種類 共同生活援助事業
 定員 9名

1. 入居者状況（令和5年3月31日現在）

①年齢別数

年齢	～20	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	計
男	0	0	2	1	0	1	4
女	0	1	1	0	0	3	5
計	0	1	3	1	0	4	9

※平均年齢 48.1歳

令和3年度頃から、定員9名のところ定員割れしている期間がしばらくあったが、令和4年度に入り体験利用から入居される方が続き、定員の9名となった。

⑦ 日中活動先（内訳）

ワークサポート陽だまり（3）、やまびこ園・ワンシード（1）、株式会社ラボウエル（3）、一般就労（2）

2. 支援内容

サービス管理責任者が中心となり、本人の状況を確認するためにも、頻回にグループホームを訪問し、顔を合わせて話をする事で、不安や悩みを相談するのはもちろん、楽しみや喜びも共有できる信頼関係を築くための支援を行った。

①社会生活におけるマナーやルールの習得について

日中活動先を休む時の連絡や重要書類が届いた時の対応など「報告・連絡・相談」の大切さを伝え、実践できるよう促した。

②現金預かり管理サービスについて

使い方について話し合いを行い、定期的に渡す金額を決め、その金額の中で本人がやりくりできるようにした。自己管理が難しい方には、短い期間で金銭を渡すことで、少しでも無駄遣いせずに使えるよう配慮した。

金銭について定期的に家族に連絡や報告できるよう、声掛けや支援を行った。

③個人対応について

居室など定期的に訪問し、部屋の様子を確認した。必要に応じて声掛けや一緒に掃除することで居室をきれいに保てるよう促した。

世話人も利用者からの依頼があれば訪問し、部屋の様子確認や寝具類の確認などを行った。

困った時には連絡をもらったり、訪問した時に気づいたりして、対応した。

世話人室で会った時などに世間話から生活の様子や金銭管理について話すことで、本人の不安を解消できるようにした。

市役所や銀行への手続きなど本人だけでは対応が難しいことに関しては、書類確認を一緒に行ったり、手続きの付き添いをしたりした。

④日中活動支援との連携について

日中活動先を休んだ時には連絡をもらい、体調面など確認を取り、必要に応じて病院受診などを促したり、受診付き添いをしたりした(コロナ対策含む)。

本人に対して、改善してほしいことなどを共有し、日中活動先と協力体制を取ること
で本人の行動を確認した。

⑤防災・防犯について

・10月20日(木) 10:30～

世話人の方々に、火災を想定し防火訓練を実施した(陽だまりと合同で)。煙体験
や消火器の使用方法を再確認してもらい、災害への意識を高めてもらった。

・3月15日(水) 16:00～

自宅周辺で洪水が発生する可能性がある想定し、実施した。

また、高齢者等避難(レベル3)の発令も想定し、避難所としているワークサポート
陽だまりまで、公用車を使用し移動する訓練を行った。

⑥職員間について

日頃から会話をするよう心掛け、ホームに対してや利用者に対して思っていることを伝
えてもらい、改善点があるときには実施し、お互いが気持ちよく仕事ができる場になるよ
う心掛けた。

利用者の対応について、それぞれの対応の仕方を聞き共有することで、新たな対応方法
の発見であったり、自身の対応の振り返りをしたりすることができた。

⑦地域移行支援、サテライト住居について

サテライト住居利用者については、1ヶ月に2～3回訪問や電話連絡を行い、話を聞き状
況確認を行った。

今後のことも考慮し、定期受診以外の病院へも受診の方法など本人に伝えた。

後見人の先生や相談員と連絡を密に取り、本人の生活状況の把握に努め、今後について
も考えた。3月末日で、サテライト利用終了となった。

⑧感染症対策について

引き続き、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、外出自粛など制限の協力を求めた。日
中活動先への個別送迎や手指消毒やマスク着用の促しなども必要に応じて行った。

引き続き、世話人室での食事も時間差で少人数で摂るようにしたり、感染レベルが高い
時には夕方も弁当箱対応にして居室での食事の協力を求めたりするなど、接触をできる
限り少なくできるよう工夫した。

コロナワクチン接種の際は、集団接種を設定し、本人や家族、日中活動先と連携を取
り、スムーズに接種できるようにした。

コロナに罹患した際には、毎日本人の体調確認を行い、家族に連絡を取ったり、必要に
応じて食料品を購入し届けたりして、体調回復まで支援を行った。

⑨地域生活支援拠点等について

2件の利用があった。

利用の際に、安心して体験が行えるよう、相談員と連携を図った。実際の利用後に、必
要な物品を新たに準備した。

利用中は定期的に部屋を訪問し、本人の様子を伺った。必要に応じて、家族や相談員な
どに連絡を取り、本人の安全確認を行った。

引き続き、グループホーム新和について問い合わせがあった時には、拠点についての利
用促進も行った。

3. 苦情件数 0件

6. ジョブコーチによる支援事業(公益事業)

1. 事業の概要

(1) 事業の目的

厚生労働省の訪問型職場適応援助促進助成金制度に基づく事業として実施。障がい者が職場に適応できるよう障害者職業カウンセラーが策定した支援計画に基づき、ジョブコーチ(職場適応援助者)が職場に出向いて直接支援等を行い、障がい者の職場定着を図ることを目的とし、福井障害者職業センターと緊密な連携体制の下で実施している。

(2) 職員体制

当事業団の職員のうち要件を満たす1名のジョブコーチ(訪問型職場適応援助者)により支援を実施している。

(3) 支援の内容

(a) 障害者への支援

- ア. 仕事に適応する(作業能率を上げる、作業のミスを減らす)ための支援
- イ. 人間関係や職場でのコミュニケーションを改善するための支援

(b) 事業主への支援

- ア. 障がいを適正に理解し配慮するための助言
- イ. 仕事の内容や指導方法を改善するための助言・提案

(c) 家族への支援

対象障がい者の職業生活を支えるための助言

2. 令和4年度事業実績

(1) 支援対象者数

知的障害者	4名(前年度1名)	身体障害者	0名(前年度0名)	
精神障害者	1名(前年度0名)	発達障害者	1名(前年度1名)	合計 6名

(2) 支援対象事業所数

敦賀市内	6ヶ所(前年度2ヶ所)	
敦賀市外	0ヶ所(前年度0ヶ所)	合計 6ヶ所

7. はなえみ

開所3年目も引き続き、「その人らしく過ごす時間」の提供と「周り生きていくチカラ」の育成を全体方針とした。

令和4年度末時点での利用契約者は24名、そのうち重度障害者支援加算対象者9名に対して計画作成と計画に基づいた支援を提供し加算取得を行った。

日課については、生産活動(缶リサイクル・受託作業)と創作活動をメインとして、従来提供してきた活動を継続した。新たな活動としては、毎月第2金曜日に音楽活動等の全体活動として「はなものがたり」を提供した。

新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、施設内の感染予防対策を徹底し、利用者のマスク着用に対する支援と連休後の抗原検査実施への協力依頼を継続した。9月には敦賀市立やまびこ園における新型コロナ感染拡大に伴い、職員の応援派遣があったため、活動内容の変更等を実施しながらサービスを継続した。